

# 不測の世にも春



3日は「節分」。各地の有名社寺では恒例の「豆まき」祭儀が行われ、一般家庭でもこの日は「鬼は外、福は内」の大声が響き、一家の幸せや健康を願う。節分の「分」は折り目を意味し、季節の変わり目を告げる日である。異例の寒波、積雪に泣いた今冬ほど待たれた節分もなろう。節分は季節を分け、鬼と福に善悪をはっきり分けるが、最近の自然現象や社会現象では予期せぬことが続いている。

自然現象では1月23日、草津白根山(群馬県)がなんの前兆もなく突然噴火した。噴石がスキー客や訓

練中の自衛隊員を襲い、1人死亡、11人がけがをした。雪の降らない台湾からの観光客も被害に遭い、噴石を浴びながら発信されたメールに留守家族は仰天した。

2014年の御嶽山(長野、岐阜県境)噴火以来、国や自治体の火山噴火対策は強化され、気象庁は全国の活火山のうち50カ所を24時間観測している。その中には草津白根山や本県の富士山なども入っている。それでも今度の噴火は、気象庁よりも台湾の留守家族の方が早く知った。予知可能とされてきた東海地震が、不能に変わったのは記憶に新しい。自然現象には予期せぬ事態がまたたくさんあろう。

社会現象にも予期せぬこととはある。新年早々、静岡市は昨年の同市への転入・転出に伴う人口の社会増減が47年ぶりに346人増えた、と発表した。原因は県外からの移住促進に加え、外国人の流入増だった。

台湾からスキーを楽しむにきた外国人観光客が突然の火山爆発に遭遇したり、減少し続ける静岡市の人口回復に外国人がかかわったりするなんて、だれが予測出来ただろうか。

4日は「立春」。暦の上では、春になる。1月26日に「センバツ」出場が決まった県立静岡高校には、一足早い春。春の来ない冬はない。

(前静岡県監査委員・富永久雄)



未来は？ 初詣での手相占い。三島市の三嶋大社、全日写連・神尾一さん撮影